

若年層の参政意識向上に資する模擬選挙の効果 -若者議会モデルの制度設計を見据えて-

堀井 爽夏

soka.horii@gmail.com

学生団体TEIGEN JP 代表

Key Words 主権者教育, 政治参画, アクティブ・ラーニング

1. 全体要約

本研究は、若年層の政治参画意識の低下や投票率の低迷に対して、若年層の参政意識を高める教育的介入として模擬選挙の導入の効果を検証するものである。この観点から、筆者が代表を務める学生団体 TEIGEN JP が主催する主権者教育事業「モギ区長選—投票ボックスの向こう側—」の評価を通して、その教育的価値および社会的意義を検討する。

本事業は、投票だけでなく「立候補する・政策を立案する・演説する・投開票する」までを体験できる模擬選挙イベントとして開催し、一定の有効性が示唆された。2023年は33名、2025年は30名が無記名アンケートに回答し、満足度は2023年で4点満点中3.60、2025年で3.73(前回比+0.13 ポイント)だった。運営面では約10万円の費用削減や大学生ファシリテーターの導入、庁舎ホールの活用、修了証の配布などを行い、体験の質と継続性を高めた。一方、申込時点で約64%がもともと政治に関心を持っており、無関心層の参加拡大が今後の課題として残る。また、声を政治・政策に届ける公的な窓口として「若者議会」の設立が有用である。



TEIGEN JP ロゴマーク(n.d)

2. 研究の背景

近年の我が国における若年層(本稿では10代・20代、とりわけ被選挙権年齢に満たない25歳未満を扱う)の低投票率というまでもなく、政治参画意識は伸び悩んでいる。若年層の声が政策に十分反映されていない現状は課題である。(NHK, 2021)

この状況を受け、文部科学省は2015年通知で「現実の具体的な政治的事象」を扱い、「模擬選挙や模擬議会」などの実践的学習を進めるよう示した。政治的中立を守りつつ、投票方法や政策形成の仕組みの理解を深め、生徒が自ら判断し権利を行使できるようにすることが求められている。(文部科学省, 2015) また、全国都道府県教育長協議会も、選挙管理委員会等と連携した学校での積極的な展開と指針の提示を要請している。(全国都道府県教育長協議会, 2015) しかし、既存の主権者教育は、「投票行為」中心の体験学習に比重が置かれがちで、投票に至るまでの連続的なプロセス(候補者準備・政策立案・討論・合意形成)の体得は限定的である。(寺本, 2023; 小林, 2021) 事実、「投票行為のみを促すだけでは継続的な参画意識の醸成は難しい」との指摘もある。(大山, 2023)

制度面でも、若年層の当事者性を弱める構造が残る。政府審議会に登用される若年世代の割合は低く、こども・若者の意見反映の仕組みは途上である。(内閣官房, 2024) さらに、公職選挙法は衆院議員・地方議員・首長の被選挙権を25歳以上、参院議員・都道府県知事を30歳以上と

以上より、本研究は「若者に政治を体得する機会を設計する」発想から、生徒の能動的な学習を促す「アクティブ・ラーニング」を通した立候補プロセスの体得を核にした主権者教育を提案する。具体的には、候補者擁立、政策立案、演説、選挙広報、投票・開票という一連の経験を模擬選挙で設計し、若者を「当事者」として育てる点に優位性がある。先行研究が示した投票体験の効果に、候補者側プロセスの実践を重ねることで、知識の定着だけでなく、自ら社会に関心を持ち行動に移す「参画意識」と政治を自分ごととして捉える「当事者意識」の向上をねらう。

筆者は高校在学中、全国高校生政策甲子園にて「政策立案から投開票」の体験を重視した模擬選挙を提言し、全国優勝を果たした。そこから「選挙をやってみる体験こそが当事者感覚を育む」という仮説を得た。そこで、同年夏に学生団体TEIGEN JPを設立・代表に就任し、提言内容の実践を学術的に裏づけることで次世代カリキュラムの普及につなげたいと考え、本研究に着手した。

PRESENTED BY 15歳の提言

モギ区長選

-投票ボックスの向こう側-

中高生イベント「モギ区長選」開催決定!!

普段はみえない投票ボックスの向こう側を体験する一日。

足立区議会、選挙管理委員会と協力のもと、あたらしい仲間とグループワークで学生だけの区長選挙へ立候補!!

今は興味が無い、あなたに参加してほしいワークショップイベント!

アイスプレイク・ディスカッション

皆さんはチームメイトと仲を深めよう!

モギ区長選グループワーク

チームで協力して区長選へ!

インフォメーション

日時: 2023年11月26日(日) 10時~17時
会場: 足立区役所 中央館8F 特別委員会室
対象: グループワークが好きな高校生・中学生
人数: 40名程度 (要抽選)
参加費: 無料 昼食提供あり
申込方法: 右下参加フォームより

ご参加いただく足立区議会議員方








【参加フォーム】
お申込み・質問は
こちらから!!



PRESENTED BY 15歳の提言

モギ区長選

-投票ボックスの向こう側-

まだ、政治と少し遠いあなたに贈る
大人気イベント「モギ区長選」が開催で足立区
議政はみえない選挙の向こう側を体験する一日。
政治家や新しい仲間とグループワークで、
学生だけの選挙に立候補!! 区長の座を掴み取るのチャンス!!

政治立案・グループワーク

皆さんはチームメイトと仲を深めよう!

学生だけの模擬選挙

チームで協力して区長選へ!



足立区役所
庁舎ホール・区議会



2025年3月20日(木)
10:00~17:00



中高生50名程度
抽選し次第開始



無料
参加者全員に
修了証をプレゼント!!

2025年 3.20 10:00 ~ 17:00

お問合せ先 15歳の提言
TEL 070-98041982
E-mail: 15daisangai@gmail.com

モギ区長選

お問合せ先 15歳の提言
Instagram: @15daisangai
Email: 15daisangai@gmail.com

モギ区長選

【参加フォーム】
お申込み・質問は
こちらから!!

フライヤー(左:2023年、右:2025年)

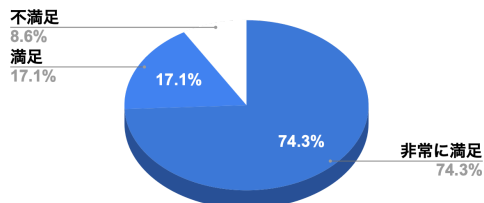


パラダイムチェンジ配布資料(2025)

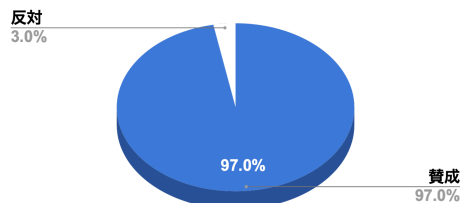
4. 結果

2023年は11月26日(10:00-17:00)に実施し、高校生30名・中学生3名が参加、区議9名がアドバイザーとして各グループに参加。2025年は3月20日(祝・10:00-17:00)に実施し、高校生23名・中学生7名が参加、区議11名と意見交換を行った。双方とも、選挙管理委員会・議会・教育委員会などの協力を得て、政策立案グループワーク、立会演説会、模擬投票、結果発表、議場見学を行った。以下に、その結果を記す。

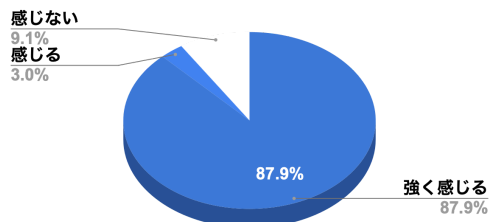
『モギ区長選-投票ボックスの向こう側-』の満足度



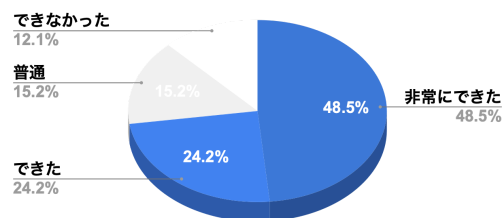
公民科カリキュラム「模擬選挙」の学校導入

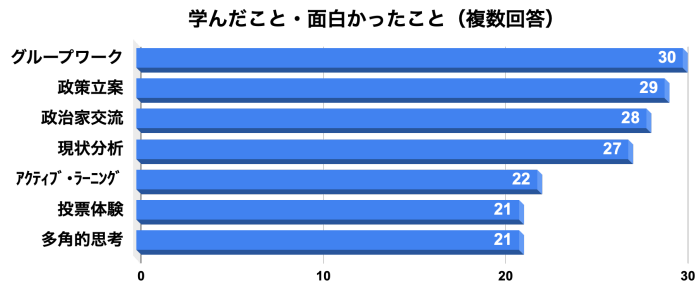


若い世代として政治参画の必要性



自分の役割・視点を定めることで
思考や議論を深めることができましたか





【2023年】模擬投票後、参加者33名がGoogleフォームによる匿名の事後アンケートに回答



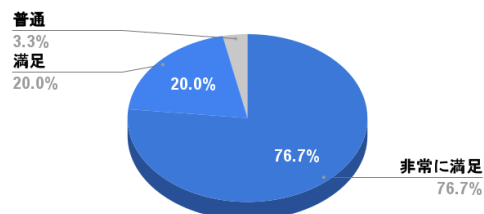
イベントの様子(2023)

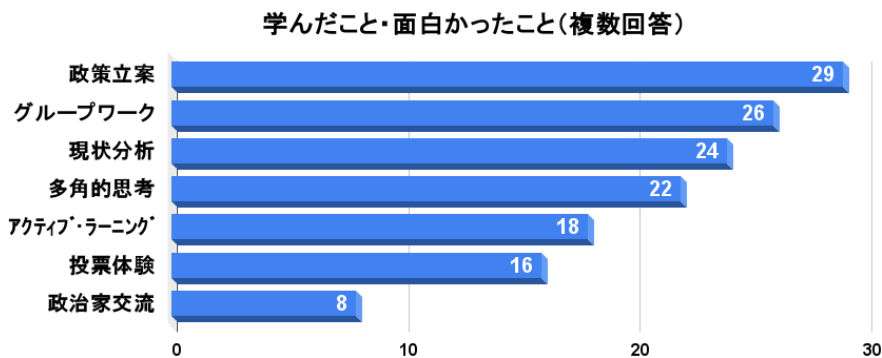
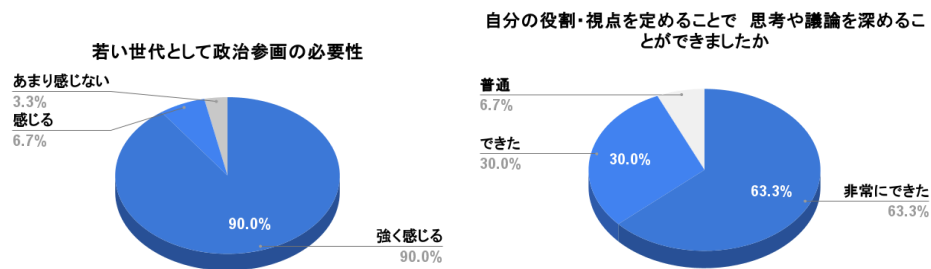
イベント終了後の事後アンケートでは、満足度は「非常に満足」と「満足」を合わせて91.4%となり、「非常に満足」単独でも74.3%であった。カリキュラムとして学校に導入することへの賛否は賛成97%であり、若い世代に政治参加が必要だと「強く感じる」は87.9%であった。パラダイムチェンジによって学びが深まったかの問いでは、「変わった／深まった」が約5割に達した。自由記述では「グループワーク」30件、「政策づくり」29件が上位で、討議と政策設計の過程に強い手応えが示された。

公民科カリキュラム「模擬選挙」の学校導入



『モギ区長選-投票ボックスの向こう側-』の満足度





【2025年】模擬投票後、参加者30名がGoogleフォームによる匿名の事後アンケートに回答



イベントの様子(2025)

満足度は「非常に満足」76.7%、「満足」20.0%で合計96.7%。公開カリキュラムとしての学校導入は賛成100%であり、政治参加が必要だと「強く感じる」は90.0%へ上昇した。パラダイムチェンジによる学びの変化は「深まった 63.3%」。自由記述は2023年同様に「グループワーク」29件、「政策づくり」26件が最多で、協働による討議と政策設計が学習効果の中心であることが再確認された。

また、2度のイベントを通じ、「仲間と未来について考える楽しさを知れた」「政策の作り方や必要な視点を実践的に学べた」「初めての投票は緊張したが楽しかった」「来年も参加したい」などの感想が寄せられた。参加議員・足立区教育長からも、「高校生が政治参加の機会を高校生自身で創出した意義は大きい」「熱意が大人を動かした」等のフィードバックを得た。

5. 考察

第4章の結果から、本実践は満足度3.60/4.00(2023)3.73/4.00(2025)、自由記述欄における肯定的反応、政治参画意欲の高さが一致しており、教育効果があったと判断できる。とりわけ途中に導入した8分間の「パラダイムチェンジタイム」は、立場の入れ替えを強制的に挟むことで、政策案の視点を増やし、発表内容の具体性を高めたと考える。

もっとも、参加母集団に関心層が多いという限界は残る。申込段階のアンケートで関心ありが約64%であったことから、イベント形式のみで無関心層の当事者性を十分に育てるには限界がある。出前授業における模擬選挙の実施、生活に直結する題材(校則・学校設備など)の採用を通して、無関心層にも最初の参加機会と小さな成功体験を提供できる枠組みを設計する必要がある。以上を踏まえ、次章で実装面の成果を整理し、第7章でその限界を超えるための方策を示す。

6. 成果

本実践の成果は三点に整理できる。第一に、学習効果の手応えである。満足度3.60/4.00(2023)3.73/4.00(2025)、自由記述での「考えが深まった」「次も参加したい」といった自己評価が多数を占めた。第二に、運営の持続可能性である。会場・備品の見直しと手順のマニュアル化により約10万円の費用削減を達成し、各チームにファシリテーターとして配置されていた区議が自由行動となり、大学生にその役割を与えたことによって討議の停滞と意見の偏りが緩和された。第三に、授業法の核が確立した点である。パラダイムチェンジタイムの挿入により、当事者や専門家といった視点の入れ替えが進み、政策案の深まりが見られた。

本成果を基盤に、無関心層の参加と成功体験を意図的に生み出す仕組みづくりが次の課題であり、その具体像は第7章で検討する。

7. 今後の研究課題

今後は、選挙管理委員会と協働してきた出前授業に注力し、校則選挙といった日常に焦点を当てたプログラムを開発・実施し、そこで生まれた提案を地域企業・NPOと協力して具体化しつつ、意見書・答申として区の政策プロセスに届ける流れを整えるべきである。ねらいは、これまで参加に消極的だった生徒にも「自分の声で変化が起きる」という成功体験をもたらすことである。同時に、モギ区長選挙の継続開催により、意識の高い層からの政策を提言書としてまとめたい。特に長期政策への将来世代の意見反映を通じて、持続可能なまちづくりにも寄与するだろう。

それらを確実に政治・行政へ橋渡しするため、区長の諮問機関「足立区若者議会」の設立を提案する。若者議会は、若者の意見を受け止め、審議し、政策側に返す公式な受け皿として機能する。

そのために、無関心層を惹きつける仕組みや授業内容を設計する。若者の誰もが自分たちの疑問や悩みを量的に可視化し、オンラインで意見・討議できるシステムを構想したい。また、出前授業では、大学生がファシリテーターとなり、中高生の学校生活や地域に関する意見をまとめていく合意形成ワークショップを研究する。また、未成年は、現時点で納税や労働などの社会的義務を完全には担っていないが、環境政策、財政負担などの将来的な影響を受けることを条件に一定の参政が認められるべきだ。そこで、彼らによる「権利の前借り」や、運営時の手続的公正を明確にする必要がある。また、地域の課題をテーマに解決を目指す出前授業を自治会や学校と企画し、そこでの提案を企業のCSR活動として実現する、地域にも貢献できるモデルを構築する。



未成年の政治参画を「権利の前借り」で正当化(堀井,2025)

今後は、足立区若者議会に関する研究を推し進め、無関心層の成功体験を制度として担保する場を構築する。若者の意思が政策に届く枠組みを全国展開可能なモデルとして設計し、日本の主権者教育を次段階へ進めていきたい。これをもって本章の結びとする。

8. 謝辞

本研究を進めるにあたり、足立区立第四中学校の山田勝之教諭、足立区議会の杉本ゆう議員から絶えず的確な指導を受けた。ここに深く謝意を表する。

学生団体 TEIGEN JP の同僚には、事業の共創と献身に対して感謝する。とりわけ副代表・横濱奏恵のトータルマネジメントに深い敬意を表する。

「モギ区長選」に参加した学生には、若い知見と新鮮な疑問を、参加区議には広い見識と深い問いを共有してもらったことに謝意を表する。

さらに、足立区役所および関係各機関、なかでも近藤やよい区長、選挙管理委員会の久保文雅管理係長、工藤てつや議長、教育委員会の大山日出夫教育長には、主権者教育事業における多岐にわたる理解と協力に対し、深く感謝する。

株式会社立命の眞野玲子代表取締役、日本青年会議所主権者意識向上委員会の石川紘嗣委員長、東京青年会議所足立区委員会の北澤龍一委員長からは、人生の先達として叱咤激励を受けた。ここに記して謝意を表する。

また、理念への共感と必要な経済的支援を提供してくれた株式会社立命、公益社団法人日本青年会議所、国際NPO Earth Guardians Japan に対しても深い感謝の意を表する。

最後に、私の学術的取り組みを常に支えてくれた家族と友人に、心からの謝意を表する。

本研究が成就したのは、ここに挙げた方々のみならず、多くの人々からの継続的な支援と温かな協力の賜物である。以上、ここに記して感謝の意を表する。

引用文献

1. TEIGEN JP. (n.d). ロゴマーク. <https://sites.google.com/view/teigenjp/teigen-jp>
2. TEIGEN JP. (2023). 「モギ区長選」レビュー①・レビュー②. [Instagram@teigen.jp](https://www.instagram.com/teigen.jp).
3. TEIGEN JP. (2025). 「モギ区長選」レビュー①・レビュー②・レビュー③. [Instagram@teigen.jp](https://www.instagram.com/teigen.jp).
4. 大山 (2023). 主権者教育推進会議 発言録 (第3回). 文部科学省. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/142/gijiroku/1413397_00001.htm
5. 内閣官房. (2024). こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する検討委員会. <https://www.cas.go.jp/>
6. 衆議院. (n.d.). 公職選挙法 (第10条: 被選挙権). <https://www.shugiin.go.jp/>
7. 文部科学省初等中等教育局長. (2015). 高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について (27文科初第933号). <https://www.mext.go.jp/>
8. 全国都道府県教育長協議会. (2015). 選挙権年齢引下げに伴う学校における教育活動の適正な実施に関する意見 (全教委連発第87号). <https://www.mext.go.jp/>
9. NHK. (2021). 衆議院選挙 投票率を詳しく分析 (年齢別投票率). <https://www.nhk.or.jp/>
10. 小林元気. (2021). 児童会・生徒会投票選挙の経験と主権者教育の知識定着の関連性. **日本特別活動学会紀要, 29, **51-60. <https://www.jstage.jst.go.jp/>
11. 寺本誠. (2023). 政治的教養を培う中学校主権者教育授業の開発——政権公約づくりと模擬投票を通して——. **お茶の水女子大学附属中学校研究紀要, 52, **1-15. <https://www.jstage.jst.go.jp/>
12. 堀井爽夏. (2025). 若者議会設立の研究報告, 24.